

策定委員からの意見・要望への対応について

No.	意見・要望	対応・回答	担当課
1	小学校入学前までの読書活動は充実してきているが、小学校に入ってから課題を感じている。なぜ子どもたちが図書館に足が向かないのかということが、現場でどれだけ分析されているのか。計画の中に文言として目標を作成しても、それが現場でどのように生きるだろうか。	【家庭・地域学びの課】 公民館・交流センターで実施している乳幼児を対象とした親子学級において、読み聞かせ等を実施し、保護者へ向けて読書の重要性を啓発していきたい。 【市立図書館】 週3回開催している子どものためのおはなし会やお楽しみセット本の貸出などイベントを通して図書館に来てもらえるようにしてる。また、おはなし会ではおはなし会カードを作成して、続けて来てもらえるように工夫している。 【学校教育課】 近年の傾向としては、小学生になると習い事等で忙しく、また、核家族が増え親も忙しくしており、家庭において読書の習慣を身に着けることが難しくなっている。学校では、年度初めに各学級に対して図書館オリエンテーションを行い、読書の有効性や価値について、児童生徒に伝えている。また、家庭での読書を推進するために、読書旬間中に親子読書の取り組みを行っている。 学校で読書を促す取り組みを行うことも大事であるが、家庭の中で、日常的に保護者等が読書する光景があり、そのことがとても貴重な時間であることを伝えていくことも非常に大切であると考えている。	家庭・地域学びの課 市立図書館 学校教育課
2	「ごはん本」を長野市の子どもたちに読んでほしい。「ごはん本」の稼働率がどうかということを考えたい。	【市立図書館】 「ごはん本」が具体的にどの本を指すのか分からないため、稼働率は不明。公立図書館として、この本は「おやつ本」この本は「ごはん本」と区別してしまうことは難しいと考える。司書が選んだおすすめ本の冊子やおはなし会で読まれた本のリストは作成している。 【学校教育課】 文学や歴史書、図鑑等全てのカテゴリーで名作と言われる本と児童生徒が手に取りやすい本との選別は、個人の主観によるところも多く、非常に難しい。そのため、稼働率を指標として採用することは難しいが、学校図書館で紹介する本をレベル分けし、最終的に名作と言われるような本に誘導する等の工夫は必要であるとする。 現在市内の多くの小中学校において、年1～2回程度読書旬間を開催している。期間中は本に親しむために先生のお薦め本の紹介や学校司書による読み聞かせを行っている。また、中には「図書ビンゴ」や全校でビブリオバトルを開催している学校もある。そのような活動を通して、名作と言われるような本に触れる機会を創出して行く。	市立図書館 学校教育課

No.	意見・要望	対応・回答	担当課
3	学校教育課と家庭・地域学びの課の読書に関する連携が弱い。図書館教育にたけていて、全市のネットワークの縦を貫くような指導主事が必要ではないか。	【家庭・地域学びの課】 学校教育課の図書館教育担当の指導主事等と連携を図り、公民館・交流センターに設置されている図書館分室を活用した取組を検討していきたい。 【学校教育課】 現在図書館教育を担当する指導主事を配置している。指導主事は、複数の教科や業務を兼務するため様々な制約等はあるが、支会ごとに年に何回か開催される研修へ参加し、学校司書の考えを聞きながら意見交換を行っている。また、そのれら研修やワーキンググループに公立図書館の担当者を招き意見交換やそれぞれの取り組みについての勉強会を行っている。 公立図書館等とは、さらに連携を深められるよう、取り組みを検討していきたい。	家庭・地域学びの課 学校教育課
4	事業番号14・15・16について、「不明」という記載があるが、原因が分かれば教えていただきたい。 * 事業番号14: 全校一斉読書の実施 * 事業番号15: 読書週間・読書旬間の設定 * 事業番号16: 学校図書館の授業での活用の推進	【学校教育課】 学校へ調査を行った際に「実施中」と回答していただいたが、回数についての言及はなかったため、「不明」とさせていただいた。	学校教育課
5	事業番号53について、学校図書館から市立図書館への個別相談は実際にはどのくらいあったのか。 * 事業番号53: 学校図書館に関する相談体制の整備	【市立図書館】 学校からのレファレンス対応は、令和元年2件、令和2年2件、令和3年1件。その他昨年度は、学校司書の支部からの依頼で研修を市立図書館で実施。(図書の修理について)また、本の取り置きに対応システムの開始、臨時休館中の図書の貸出対応、授業で使う本についてのリクエストの受付など対応させていただいた。	市立図書館
6	市立図書館と学校との連携が取れていない。市立図書館が、本のリストを作成して学校へ配布していたが、そういうことをしてきていても、なかなか向上しない。	【市立図書館】 現在、本のリストは学校へは配布していない。学校司書、市の学校教育課とのワーキンググループに参加しており、その時々問題となっていることで市立図書館が対応できることはさせていただいている。困ったことがあれば、相談してほしいと伝えている。連携がとれていないとは具体的にどの点についてか知りたい。 【学校教育課】 年5回ほど行っている学校司書ワーキンググループには、市立図書館の担当者に出席いただき、意見交換やそれぞれの取り組みについての勉強会等行っている。それら活動により、昨年度から、中山間地域の学校を対象に市連絡便を用いた団体貸出を実施している。また、今年1月からは団体貸出の取り置きについて、市内小中学校全校を対象に試行中である。このような活動を継続していくことにより、学校と市立図書館との連携強化を進めて行く。	市立図書館 学校教育課

No.	意見・要望	対応・回答	担当課
7	第四次計画を策定する4か月の間に、保育園・幼稚園、小学校の実情や課題を把握し、それらを踏まえた実践可能な取り組みを明確化することは難しいか。	【家庭・地域学びの課】 第三次計画の進捗状況調査において把握した実情や課題をもとに、第四次計画における取組を検討していく。 【学校教育課】 委員のみなさんからは、これまでも核心を突いた多くの課題が挙げられている。限られた時間の中での作業となるため、これまで挙げられている課題を分析し、必要な取り組みを検討していきたい。 【保育・幼稚園課】 公立園の他に私立園が多くある中で、保育園・認定こども園・幼稚園等の実情や課題を把握し、まとめた後、実践可能な取り組みを明確化することは難しいと思われる。	家庭・地域学びの課 保育・幼稚園課 学校教育課
8	学校司書の勤務体制の実情を吸い上げ、より学校司書が実働ができる環境を整えていけたらと感じている。	【学校教育課】 学校司書の勤務体制については、これまでにアンケート調査を行ったり、意見交換や説明会を行う等司書の希望等の把握に努めてきた。家庭事情や考え方等様々であり、全ての司書に満足のできる環境とはならないまでも、今年度についても、定期的にワーキンググループを開催し、司書の希望を聞きながら働き方の選択の幅を広げられるよう検討していきたい。	学校教育課
9	本を読めば良いだけでなく実体験を伴うことで理解が深まる。小学校、中学校、高校へとつなげていくためには、草の匂いや風の心地よさなど、原体験や遊びの中で学びの芽を育てたいと考える。	【家庭・地域学びの課】 令和元年度に、子ども読書活動推進イベントとして、長野県立大学生による「体験型の朗読劇」を実施した。体験型の朗読劇は、子どもたちが実際に劇に参加し演者と観客が一緒になっておはなしの世界を共有するもので、子どもたちは声を出したり体を動かしながらお話の世界を楽しんだ。屋外イベントなどとの組み合わせは難しいと考えるが、読み聞かせを行うボランティア等と連携しながら、子どもたちへ読書に親しむ機会を提供できるよう、工夫を行っていきたい。 【学校教育課】 委員指摘の通り、実体験を交えることで読書の質が格段に向上すると考えている。そのため、各学校において学校司書が担任の教諭と連携し、生活科やその他授業で扱ったことを図書館で調られるよう選書や調べ学習に力を入れて取り組んでいる。	家庭・地域学びの課 学校教育課

No.	意見・要望	対応・回答	担当課
10	就園前のお子さんのいる家庭では、保護者の読書への興味の有無と家庭における読書環境の有無は関連していると感じる。	【家庭・地域学びの課】 市立公民館・市交流センターの重点事業として、親子の学び「親子学級」を行っている。保護者の読書が子どもたちに与える影響は大きいと考えられることから、親子学級の中で読書に係る取組を充実させていくことを検討していきたい。 【保育・幼稚園課】 保護者の読書への興味関心が読書環境に大きく影響すると考える。そのため、園では絵本の貸出しや、おたよりの配布等行い、保護者も絵本等に興味を持てるよう取り組んでいる。	家庭・地域学びの課 保育・幼稚園課
11	絵本から児童書へと移る部分について、どのように橋渡ししていくかが課題であり、そのことに関連した施策や提言ができると良い。	【家庭・地域学びの課】 子どもが絵本から本へ移行する環境として保護者の読書の影響が大きいと考えられるため、読み聞かせ等に子どもと一緒に来場した保護者への取組を検討していく。 【学校教育課】 指摘にあるように学校司書が感じている課題として読書の2極化がある。できる子どもは、幼少期、小学校、中学校とカテゴリーが進むのに合わせてより、効果的な読書を行えるのだが、他一方でいつまでも児童書や漫画など分かりやすいものに留まり次のステップに進めない子どもが多いとのことである。現在市内の多くの小中学校で、学校司書や地域のボランティアの方による読み聞かせを行っていただき、発育段階に応じた本を読み聞かせしているが、より効果的な取り組みとなるよう他部局等とも連携し、施策の検討を行っていきたい。 【保育・幼稚園課】 園では幼児期に様々な本に触れ、親しみが持てるよう工夫している。絵本や物語の読み聞かせ等を通して絵本や物語に興味を持ち、様々な体験を通してイメージを持ちながら絵本や物語の世界を楽しめるようにしている。	家庭・地域学びの課 保育・幼稚園課 学校教育課
12	子ども広場等に参加ができない、他との繋がりが無い家庭へのアウトリーチが現在ではできていない状況なのではないか。ひとり親家庭の保護者は、絵本を読んであげたいけれども時間がない状況である。このような状況へのフォローについても課題ではないか。	【家庭・地域学びの課】【健康課】 「おひざで絵本」事業において、家庭の事情等で個別のフォローが必要だと考えられる家庭については、健康教室で絵本を受け取ることができなかった場合に保健センター保健師が個別に声をかけ、家庭訪問時に絵本を渡す等の対応をしている。今後も家庭・地域学びの課と健康課で連携を取りながら、事業を実施していきたい。	家庭・地域学びの課 健康課

No.	意見・要望	対応・回答	担当課
13	大人のためのお話会や読み聞かせボランティアの育成など、子どもを取り巻く環境を整えることが必要である。 本のおもしろさを伝えていくためには、周囲の環境から整えていく必要がある。具体的な施策を考えていけると良い。	【家庭・地域学びの課】 市立公民館・市交流センターの重点事業として、親子の学び「親子学級」を行っている。保護者の読書が子どもたちに与える影響は大きいと考えられることから、親子学級の中で読書に係る取組を充実させていくことを検討していきたい。(再掲) 【市立図書館】 子どものためのおはなし会は週に3回、おたのしみ会は年に5回行っている。また、大人のためのおはなし会を昨年度から開催しており年に3回行っていく。コロナで臨時休館中にはテーマを付けたセット本の貸出を行い好評だったため、今後も継続していく。(次回は夏休み)ボランティアについては、毎年講師を招いて養成講座を行っている。幼稚園・保育園に対しては、団体専用の絵本を用意して貸し出しを行っている。	家庭・地域学びの課 市立図書館
14	最近の子どもたちは習い事等で忙しく、本を読む時間は学校にいる時ぐらいしか無い状況である。また、新型コロナウイルス対策で、図書館に借りに行く曜日・時間が決められており、本に触れる機会自体が減少している。	【学校教育課】 各学校において、年2回読書旬間を設けたり、朝読書の時間を設けている。また、本に係る「イラストコンテスト」や図書委員によるビンゴ大会を開催したりと普段から本に親しめるよう、各学校において創意工夫のある活動を行っている。引き続き学校生活において本に触れる機会を増やす取り組みを推進していく。	学校教育課
15	義務(教育)の立場だけではなく、長野市全体の図書館を見ることができる立場から助言し、連携を働きかけられるような人物が必要である。例えば、市立図書館においてレファレンスやパスファインダーというサービスを提供していることを学校現場は知っているのだろうか。そのようなことについて連携を図ることができる立場の人を置くことはできないものか。	【学校教育課】 長野図書館においては、学校図書館支援担当ということで専門の方を設けていただいている。また、ワーキンググループを開催する際には両図書館からオブザーバーとして担当の方にご出席していただいている。それら取り組みにより、前述のような新たな連携も生まれ、さらに今後も連携を深めていく予定である。人の配置については、必要に応じて検討することとしたい。	学校教育課
16	第三次計画の時から家庭が変化してきている(新型コロナウイルスの流行、共働き家庭やひとり親家庭の増加)。家庭というものを現時点でどのように受けとめて、どのような働きかけができるかということについての提言も考えられるのではないか。	【家庭・地域学びの課】 子どもを取り巻く大人の読書環境についての取組など、家庭環境の変化に対応した取組を盛り込めるような計画としていきたい。	家庭・地域学びの課

No.	意見・要望	対応・回答	担当課
17	「ごはん本」を稼働させていくための司書研修も、今後大事に考えていくような方針を出していただきたい。	【市立図書館】 長野県図書館協会主催の「読み聞かせ講座」や年齢に適した選書などの研修を毎年受講している。 【学校教育課】 現在本市においては、学校司書を対象とした研修を年3回行っている。また、市内小中学校を7つの支会に分け、各支会で年2～3回程度研修会を行っている。そこで名作と言われるような本についても取り扱い、それぞれの学校の取り組みを情報共有するとともに有効な取り組みについては、他校へも波及させるよう促していく。	市立図書館 学校教育課
18	予算的な都合もあると思うが、学校司書の立場の保証についても考えてほしい。学校図書館でしか改善できない現状があるとしたならば、図書館司書が長野市の読書活動推進の大きな要となる。	【学校教育課】 研修等の機会に学校の現場の声を聞き取り、予算に反映できるよう努める。その他8番と同じ	学校教育課